

社会的視点取得能力の5段階

レベル
0
(3~5歳)



自分と他者の視点の区別が難しいので、まだ獲得できていません。

レベル
1
(6~7歳)



自分と他者の視点を区別できるようになります。ただしこの段階では表情や言葉など表面的な言動から予測する傾向が強いです。

レベル
2
(8~11歳)



他者の視点から自分の思考や行動を考えられるようになります。

レベル
3
(12~14歳)



自分と他者という2つの視点に加え、第三者や複数の人の視点を関連づけられるようになります。

レベル
4
(15~18歳)



具体的な第三者だけでなく、「社会」「共同体」など、一般化された他者を含む複数の視点が存在する中で、自分自身の視点を理解できるようになります。

認知

社会的視点取得能力

対人関係を円滑に築いていくためには、お互いに思いやりの心を持つことが大切です。ではこの「思いやり」というものはどのように発達するのでしょうか。

相手を思いやるためにはまず、自分と相手が別の存在であるというものを理解した上で、相手が持つ「気持ち」「考え」「信念」「動機」「意図」などといったような内面的な側面を、相手の視点から推測して理解する必要があります。

心理学ではこれを「社会的視点取得能力」、あるいは「役割取得能力」と呼んでいます。発達に応じて取得していくこの能力を、5つの段階に分けて見ていきましょう。

このように、児童期後半から青年期にかけて、社会的視点は段階的に取得されていくことがわかります。